

海中の様子

福浦のサンゴイソギンチャクとクマノミ



サンゴイソギンチャクとクマノミ。成長すると体の色が黒っぽく変わる(左、2021年7月26日撮影)、幼魚は体色がオレンジと白が目立つ(右、2017年9月撮影)

真鶴半島西側、湯河原町福浦の水深 10m ほどにはたくさんのサンゴイソギンチャクが生息し、一面のお花畑のように見事な海中景色を見せています。この福浦のサンゴイソギンチャクは、三ツ石海岸のウメボシイソギンチャクと共に神奈川県天然記念物に指定され、真鶴半島の海の自然の豊かさを象徴する生物です。

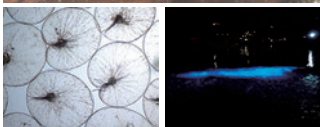
サンゴイソギンチャクにはクマノミが共生します。イソギンチャクは触手に無数の刺胞(小さな毒針)を持ち、それを使ってプランクトンや小魚をつかまえて食べています。そのため、普通の魚はイソギンチャクに近づくことはできません。一方、クマノミは、体の表面が特殊な粘液で覆われているため刺胞に刺されることがなく、逆にサンゴイソギンチャクの触手を他の魚から身を守る隠れ家になっています。

クマノミは本来温かい海で暮らす魚です。これまで真鶴周辺では、夏の終わりに黒潮に乗ってやってきた幼魚は、冬には姿を消していました。しかし、今年の福浦では夏前でもクマノミの成魚が見られていて、どうやら越冬したようです。海水温の上昇により、身近な海にもさまざまな変化が起こっています。

トピック 真鶴の海

夏の風物詩、ヤコウチュウ今年も光る

海が赤く見える赤潮は、毎年5月頃から真鶴でも見られます。この赤潮の正体はヤコウチュウというプランクトンで、毒は無いので大発生してもそれほど心配はいりません。ヤコウチュウは刺激を受けて発光し、赤潮の日の夜には波打ち際できらきらと青白く光り幻想的です。海辺の町真鶴では、ヤコウチュウの光は夏の風物詩として多くの人に親しまれています。弱い光ですので暗闇に目を慣らしてから観察してみましょう。

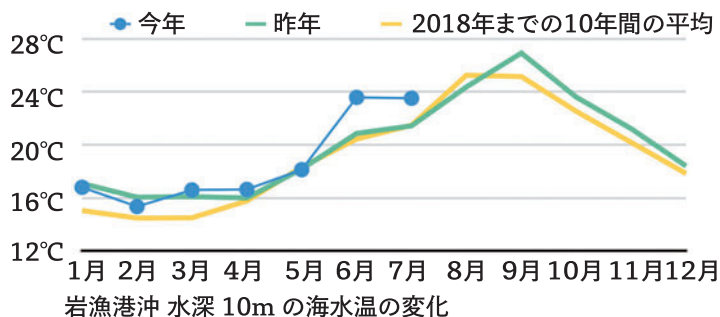


琴ヶ浜の赤潮(上、2021年7月撮影) 顕微鏡で見たヤコウチュウ(左下)、波打ち際で発光する様子(右下)

真鶴の海況

2ヶ月連続、8月並みの高い海水温

岩漁港沖水深 10m の7月の海水温は6月と変わらず、23.5℃でした。例年8月ごろには23℃以上になりますが、今年は6月から海水温が上がり、海の中でも早くから厳しい暑さが続いているようです。< 情報提供：横浜国大臨海環境センター >



まなづるの漁獲情報

イワシなど旬の魚も漁獲少なめ



ウルメイワシ (体長 20cm 程度)

夏はもともと漁獲が少ない時期ですが、今年は例年より少なく、水揚げされる魚の種類もあまり多くはない日が続いています。

今回紹介するウルメイワシは、夏から多く獲れるようになる魚です。ウルメイワシは目を「脂鱗」という膜で覆われているため、他のイワシ類と違って目がうるんでいるのが特徴で、新鮮なものは、背中側の藍色と腹側の白銀が美しい魚です。鮮度が落ちやすいため、一般的には目刺しとして干物に加工されます。

真鶴では、水揚げ後すぐにお店に並ぶので、刺身で食べることもできます。今回は港町ならではの食べ方、刺身で味わいました。< 情報提供：真鶴町漁協 >

町立遠藤貝類博物館 8月中旬～9月のイベント

町立遠藤貝類博物館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間、休館いたします。それに伴い、イベント・ワークショップも中止となります。開館情報やイベントの延期日程などは HP に随時掲載しますのでご確認ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。印刷、掲示・配布歓迎です。